



## 研修講座 B-1 「特別支援教育3回連続講座③」を実施しました！

1月30日(金)、「特別支援教育3回連続講座③」の研修講座を実施しました。ラストの3回目である本講座では、國森指導主事から主に①副次的な籍について、②特別支援学級及び通級による指導の適切な運用についての話がありました。ここでは②について記載します。令和7年9月、文部科学省より、在籍児童生徒については「原則として週の半分を目安として」特別支援学級で個に応じた授業を行うことを徹底するよう改めて指示がありました。子どもたち一人一人の特性や心身の発



達の段階には個人差があります。だからこそ「特別な「支援」を必要としています。それらが個に応じていると、子どもたちの未来を切り拓く力になると考えます。計画的に校内支援委員会等で教育課程を作成し、適切な運用を図っていただきたいと思います。また通級による指導については、拠点校の一つである上野西小学校の取組を詳しく紹介していただきました。こ

こで先生方と共有したい考え方として、通級による指導は「障がいによる学習上または生活上の困難を改善し、または克服することを目的とする指導」つまりは「自立活動」であり、「教科の遅れを補充するための指導ではない」ということです。眼球運動やビジョントレーニング、SSTなどはその目的に依拠しています。加えて通級についても、通級担当者・管理職・学級担任・特支コーディネーターが中心となり、チームとして一緒に考えていくことが大切です。

コーディネーターの先生方には、校内で還流していただき、実践に活かしていただきますよう、お願いします。

## アンケートより【一部抜粋】

・今日はグループ交流の機会が2回あり、各校の実践や通級による指導について成果や課題、今後の方向性を交流することができ、充実した研修となりました。つばさ学園の先生から情報をいただき、通級の段階的な支援、自己理解の力をつけていくことの必要性がよく理解できました。「副次的な籍」の整備について、来年度は進めていきたいと思えます。【小】

・「副次的な籍」については、2学期につばさ学園さんと交流をもちました。今後も大切なつながりとして取り組んでいきます。また通級担当の先生に校内で研修をしていただきました。「授業の遅れを補充する場ではない」という理解を職員で共有できたと思えます。通級入級児童が、達成感や自信を得られる時間になるよう、通級担当の先生と引き続き情報を共有し、交流担任との「つなぎ役」をしていきたいと思えます。【小】

・通級指導については、まだまだわからない、どうなっていくのかと心配なことばかりです。でもこのような研修会で広く通級指導を理解する先生が増えて進めていけたらと思えます。校内でも研修会を通して、通級指導を理解し、職員全体で進めていきたいです。【中】

・グループ交流のメンバーの方が大きい中学校・小規模校など交えてくれてありましたので、いろいろと教えてもらうことができました。ありがとうございました。通級のことはわからないことが多かったのですが、少しわかったように思えます。わからないところは、また直接聞かせたいと思っています。【中】